

リハビリテーション研究法特論 (量的研究)

[講義] 第1学年 前期 必修 2単位

《担当者名》 吉田 晋 ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp 武田涼子 児玉壮志 桜庭 聡 若松千裕 岩部達也

【概要】

リハビリテーションの効果を表す尺度は脳波や筋電図といった神経生理学的なパラメータから比較対象試験、さらには疫学的調査研究まで幅広い。本講義では、こうした対象者の変化を量的変化としてとらえるための手法を学び、リハビリテーションの効果を科学的に立証するためのスキルを身につけることを目的とする。

【学修目標】

1. 人から得られる各種パラメータについてその特性を説明できる。
2. 各種データの性質に応じた解析手法を使用できる。
3. 実験的研究(介入研究)のプロセスについて説明できる。
4. 実験的研究における様々なデザインの特性や利点欠点について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1~2	量的研究 1	量的研究とはなにか、数値を扱ううえで注意すべき点などについて担当する。	吉田 晋
3~4	量的研究 2	脳波、筋電図などの神経生理学的パラメータの計測と解析におけるデータの扱い方について担当する。	岩部達也
5~8	量的研究 3	運動学的、運動力学的時系列データの計測と分析、パフォーマンスの捉え方や運動シミュレーションについて担当する。	武田涼子
9・10	量的研究 4	調査研究について、研究デザインから量的データの解析方法と解釈方法について担当する。	児玉壮志
11・12	量的研究 5	機能的近赤外分光法(fNIRS)による計測の概略(デザイン等)と得られるデータの解釈、また認知課題等における行動学的データの計測や解釈方法について担当する。	桜庭 聡
13~15	量的研究 6	神経心理学的研究における量的研究法について、研究デザインから量的データの解析方法と解釈方法について担当する。	若松千裕

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

講義への参加状況(50%)とプレゼンテーション(作成資料および発表内容50%)により評価する。

【教科書】

適宜資料を配布する。

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること(280分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2. リハビリテーション領域における高度な知識および技術を修得し、対象者が抱える諸問題に対して、科学的根拠に基づいた質の高い臨床実践を展開できる問題解決能力を身につけている。

DP4. リハビリテーション領域における臨床的課題に対し、医科学・心理学・社会福祉学などの学際的視点を取り入れながら科学的に分析・解決する能力を身につけている。

【実務経験】

吉田 晋(理学療法士) 武田涼子(理学療法士) 児玉壮志(作業療法士) 桜庭 聡(作業療法士)

(2026年度・大学院 リハビリテーション科学研究科)

若松千裕 (言語聴覚士) 岩部達也 (理学療法士)